



理事長あいさつ

公益財団法人岩手県体育協会
副会長兼理事長 谷藤 節雄

6月に副会長兼理事長に就任いたしました。「2016 希望郷いわて国体」に向けての選手強化では、各競技団体の皆様に本当にお世話になりました。今後も微力ではありますが、私に与えられた役目を精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2020年に鹿児島県で開催予定だった第75回国民体育大会、新型コロナウイルスの影響で延期されたことに伴い、名称を「特別国民体育大会 燃ゆる感動 かごしま国体」として開催されました。総合開会式場には、そのことによって開催が延期となった後催県（佐賀、滋賀、青森）への感謝の横断幕が掲げられていました。

本県の国体成績は、8位入賞以上にあたえられる競技得点408.5点により、天皇杯順位は全国33位、東北では宮城県に次ぐ第2位という結果になりました。主な得点競技は、ホッケーが104点（少年女子3位44点・少年男子4位40点・成年男子5位20点）、スケート60点、スキー38点、自転車36点、陸上競技32点、弓道30点など40競技中17競技が得点をあげました。アジア大会に出場した、ホッケーの田中海渡さん、ソフトテニスの高橋乃綾さんも調整が難しいなか合流し、活躍していただきました。

種別では、成年女子が全国28位、少年男子が34位、成年男子が全国36位、少年女子が38位となり、成年女子の活躍が全体を支えました。

2団体5個人が「日本一」に輝きました、それぞれの取組を紹介します。

スケート競技2000mリレーの成年女子チームは、ダッシュカのある熊谷萌さんが好スタートを切り、吉田雪乃さん・星野帆乃華さんは他県選手との接触・転倒がありながらも必死でバトンをつなぎ、アンカーの松澤優花里さんが最後、北海道をかわして大会新記録で3年ぶりに優勝しました。松澤さんはレース直前の1000mも制し2冠を達成しました。

自転車競技チームスプリント女子チームは、第1走者（先頭）を担った熊谷芽織さんが得意のスタートダッシュで1周目を引っ張り、風の抵抗を受けないぎりぎりの距離感でこぎ続けた第2走者の小原乃亜さんがスピードに乗り2周目のフィニッシュ、大会新で頂点に立ちました。ともに高校から本格的に競技を始めた先輩・後輩、コロナ禍で実現できなかった「2人で組んで勝ちたい」という熱い思いが結実しました。

スキー競技成年男子Bジャイアントスラロームの宮本慎矢さんは、75回国体に続く2勝目をあげました。徹底的に攻めることを誓い、リズムに乗り巧みなターンで加速、直線的

なラインで一気に滑り降りました。希望郷いわて国体に向けて本県の選手となりましたが、本番3ヶ月前に遠征先のイタリアで転倒し前十字靭帯損傷の大けがを負い、長期離脱。その後、懸命のリハビリで競技に復帰しタイトルをつかみました。

ローイング（ボート）競技シングルスカル成年男子で国体連覇を達成した菅原陸翔さんは、189cm 90kgの恵まれた体格を生かした力強い漕ぎで、レース中盤までに大きくリードを広げ完勝しました。中学時代はスキー、テニスに打ち込みましたが、県の「いわてスーパーキッズ発掘・育成事業」でボートの適性を見いだされ、強豪の福井・美方高校、日本大学で力を伸ばしました。国体には、ふるさと選手（卒業した小・中・高校いずれかの学校が所在する都道府県から国体に参加できる制度）として本県を選択し出場しています。

ボクシング競技成年男子ミドル級で国体連覇した鳥谷部魁さんは、高校2年時のインターハイでベスト8、期待された3年時は、コロナ禍で大会が中止となりました。拓殖大学に進み、地道な努力で技術を磨き、昨年のとちぎ国体に続く2年連続の全国制覇で高校時代の無念を晴らしました。

ボウリング競技成年男子個人で優勝した菅原奏さんは予選6ゲームを首位で通過し、決勝の3ゲームはリードを守り抜き、抜群の集中力で県勢17年ぶりの栄冠をつかみました。精神面を支えたのは圧倒的な練習量。小5で競技を始め、高校時代は1日に20ゲーム、10万球は投げてきた地道な努力が自信となり、大一番で勝負強さを発揮しました。

「日本一」という頂点を極めるための試練や苦労は、私達には計り知れないものがあります。その一つ一つの試練を皆さんがどう乗り越えてきたのか、皆さんの勇気と覚悟に敬意を表し、感謝申し上げます。

県体協の事業として、スポーツ少年団活動の活性化に向けたスポーツ交流大会の開催や派遣、少年団員リーダー養成、スタートコーチ養成講習会。生涯スポーツの推進及び振興のため、総合型地域スポーツクラブの支援やスポーツ指導者の育成など地域スポーツ環境の活性化を図っています。また、賛助会員からの募金を財源として、優秀選手・指導者の表彰や国際大会出場選手の支援、アスリートの県内就職を支援しています。

今後も、スポーツが県民に与える「元気」や「勇気」をエネルギーとして、その力が復興と岩手の更なる発展の一助となるよう取り組んでまいりますので、皆様の御支援と御協力をお願いいたします。